TIC 案内業務事例
【 「V」通信 463 号 2020 年 1 月 10 日 】

台湾 女性 1 名 30 代
Q:携帯の画面の写真を見せて「これは着物ですか」との質問
A:確かに着物の形をしているが、黒色で襟と袖のところに金色の寿という字が刺繍されている。腰のあたりには結ぶ共布がついている(ガウンの様)ため、普通の着物とは言い難い。話を聞いてみると、彼女のヨーロッパの友人が以前、東京で購入し、台湾人にプレゼントしたとのことだった。「通常台湾(中国も)寿衣というと、お葬式の際に亡くなった人に着せる服のことで、それを連想させる服を台湾人にプレゼントするのは縁起が悪いのではないか。日本ではお葬式の際、亡くなった人にこういった服を着せるのか」と聞かれ、基本的に白を基調とした装束や、最近では葬儀業者の用意したもの、浴衣や故人が愛用していた服を着せることが多いと伝えた。結局漢字がわかる東洋人(中国系)には縁起が悪いと受け取られる可能性が高いため、プレゼントするにはあまり好ましくないものであったと話していた。再度インターネットで調べてみると、訪日旅行者向けのお土産用着物サイトに黒い寿紋の着物があった。日本では寿という漢字は「寿命が長い」という縁起の良い漢字であり、それと外国人が好むシックな黒を融合させた商品であった。

オーストラリア 男性 1 名 60 代(リピーター)
Q:周辺でアプリコットのお酒を購入できるところを教えてほしい
A:要望されているアプリコットのお酒は、あんず酒のことで、男性はすでに近隣のビックカメラで確認したが、売っていなかったとのこと。オンラインショップであんず酒を販売しているリカーハセガワや、成城石井なども案内した。すると先程来所した男性が再来所。よくよく確認してみると、日本の KIRIN の杏露酒という特定のお酒がほしいとのことであった。リカーハセガワでは海外のものしか扱いがなく、リカーマウンテンの銀座 777 に確認しても取り扱いはない。スーパーのほうが取り扱っている可能性が高いと判断し、滞在先の神田からも近い上野の赤札堂に電話確認したところ、取り扱いがあった。念の為本人に画像を見せて確認した。日本には 28 回来ているという男性は、御徒町にも滞在経験があり、周辺のアクセスのことはよく分かっているようであった。しばらくすると、男性はパッケージの表示内容について確認したかったようで三度(みたび)来所。先程紹介した杏露酒は、パッケージに”Apricot & Honey”と表示されており、男性は Apricot のみが欲しいとのことであった。再度ネット検索してみたが、Apricot のみの杏露酒は見つけられず、製造元である KIRIN に直接問合せたところ、KIRIN で製造している杏露酒にはすべて蜂蜜が入っているとのことであった。11 月に広島で”Honey”の表記の無いものを見たとおっしゃっていたが、全ての商品に”Honey”の記載があるわけではないこともわかった。説明すると、そういうことだったのかとご理解いただき、早速店に向かった。

スペイン 女性 1 名 30 代

Q:皇居大嘗祭について、風呂敷ワークショップの参加

A:TIC 外の風呂敷ディスプレイをご覧になっていたところをお声がけ。興味があるようだったので、「お時間があればぜひご参加下さい」と、毎週月曜日の 10 時より開催している風呂敷ワークショップについて案内。併せてイベントインフォメーションの掲示より、皇居大嘗祭についての質問も頂く。乾通りの一般公開も始まっており混雑が予想されたが、せっかくの機会なのでと、乾通りから大嘗祭を見学し東御苑へ行くルートをお勧め、道案内をした。数日後、「風呂敷ワークショップに参加したい」と再来所。簡単なバックの作り方やペットボトルの包み方などを行ってみたが、一見順調に作成しているようで、風呂敷包みの基本となる「真結び」にだいぶ苦戦している様子。これにはお客様も、「スペインに帰ってからの宿題にします」とサンプル本を持ち帰り、姪っ子さんと一緒にクリスマスに向けてやってみるとのこと。聞くとこの方は、スペインの旅行関係の会社で働かれているようだった。特に風呂敷の 3R(Reduce/Reuse/Recycle)の説明などは、「スペイン人も共感できるはずなのでぜひ広めたい」と、完成した作品の写真を何枚も撮っていた。「この後、これからお勧めしたい場所としてチェックしている柴又にも行ってみる」と話していた。